

理想の街は、 人をつなぐ。

スウェーデンと日本の交流は、スウェーデンヒルズ事業の計画段階から始まっています。この街の中心に佇む「スウェーデン交流センター」は、当社の創業を支えたメンバーたちが橋渡し役となり、両国の文化交流や友好を深める拠点として、1986年に開館しました。スウェーデン交流センターとスウェーデンヒルズは、いわば両国をつなぐ歴史の両輪のような関係なのです。



札幌の中心部から車で約40分。石狩湾を一望できる丘陵地の変化に富んだ地形と豊かな自然を感じる森に包まれた街、スウェーデンヒルズ。スウェーデンハウスの創設メンバーが掲げた「人が人らしく自然と調和して豊かに暮らす」という理想の街づくりを実現するために、1984年に誕生したスウェーデンハウス発祥の地です。ここには多忙な日々を送る現代が忘れかけていた、大自然を背景に悠々と日常を楽しむ暮らしがあります。詳しくは www.swedenhills.jp または

スウェーデンヒルズ 検索

日本とスウェーデンの 交流拠点に ふさわしい丘。

1976年末から77年初めに
かけて、当社創業メンバーが視察
のため北欧を訪問した際、当時ス
ウェーデン駐在大使であった都倉
栄二氏に大変お世話になりました。
都倉氏は帰任後の1978年、現
在スウェーデンヒルズのある丘を

画されました。スウェーデン文化に
直接触れられる場が日常にあるとい
うことは、大切な家族が住まうこの
街や住まいのルーツについて、自然
に触れたり、考えを深めるきっかけ
があることを意味します。今ほど
スウェーデンを知る術が少なかった
当時、センターの存在は、理想の
街を育むために不可欠でした。

レクサンド市との 姉妹都市提携、 スウェーデン国王の来訪。

スウェーデン交流センターを中心
に友好の輪は広がっていきました。
1987年には、センターの仲介に
より、当別町とスウェーデンのレク
サンド市が姉妹都市提携を調印。

初めて訪問され、当社創業メン
バーらと共に「人が人らしく自
然と調和して暮らす」という理
想のもと、スウェーデン村の実現
にご尽力いただくことになったの
です。翌年には初めて開催された
「スウェーデン北海道産業文化提
携会議」のメンバーが当別町を訪
問。「ストックホルム郊外によく似
ている」この地に両国交流拠点の
設置が提案され、1983年に財

街や住まいへの 愛着を深めるために。

以来、教育・文化・スポーツなど
多岐にわたって活発な活動が行わ
れています。1990年には、国
王カール16世グスタフ陛下の来訪
が実現。これを契機として文化交
流にさらなる拍車が掛かりました。
スウェーデンヒルズで毎年開催され
る夏至祭やルシア祭は、当別町と町
ぐるみのイベントとしてすっかり地
元の風物詩に。姉妹都市提携30周
年の2017年にはレクサンド市
長をはじめ60名の訪問団を迎えて
様々な記念行事が行われました。

団法人を設立。1986年には「ス
ウェーデン交流センター」がオー
ブンしました。

その記念すべき年に初開催となつ
たのが「当別スウェーデンマラソン」
です。レクサンド市からもランナー
を招き、センターがこのレースの栄
えあるスタート地点になりました。
「木工の技術をマスターして自
分の手で椅子を作りたい」「吹き
ガラスを体験したい」「スウェー
デン語を学びたい」…。センター
に足を運ぶ理由は人それぞれで
す。どんな目的であれ、人と人が
結びつき互いに刺激を得る場が身
近にあることは、コミュニティに
潤いをもたらします。移住された
方や地元のみなさんのふれあいを
スウェーデン文化を通じて温める、
スウェーデン交流センターはそん
な場にもなっているのです。

国と国のつながりも、基本と
なるのは人と人の心の交流です。
スウェーデン交流センターは当初よ
り、暮らしの舞台である街の中に計

国と国、人と人をつなげる

一般財団法人

スウェーデン 交流センター

スウェーデンと日本の交流を目的に
設立。当施設ではガラス工芸工房、
木材工芸工場の体験・見学、スウェー
デン雑貨の展示販売などを行って
います。スウェーデンの生活文化に直接
触れるイベントとして、6月/夏至祭、
8月/ザリガニパーティー、9月/スール
ストロミング試食会、12月/ルシア祭
などを開催しています。

<http://swedishcenter.or.jp>



スウェーデンの伝統行事「夏至祭」イベント



センターホールではスウェーデン雑貨を展示販売



8月「当別スウェーデンマラソン」を開催



ガラス工芸工房



木材工芸工房